

菅総理は日韓併合百年を迎えての謝罪談話を発出した。一番の問題点は、日韓併合が如何にも強制性を持ったものであると誤解されるということであり、将来に大きな禍根を残すこと必定である。その証拠に、韓国大統領はそれを評価しているではないか。危うきかな、民主党政権！

党内抗争も激化している。分裂して政界再編成をした方が国家のために是と思うが・・・



さて、さる8月11日から、下界の記録的な猛暑を避けて(?)、腰部脊柱管狭窄症に因り「LOVE式髓核摘出術」を受けるために、昨春新築オープンした自衛隊中央病院に入院、手術も無事に終わり、全館冷房、白衣の天使に囲まれて、予後の段階に入っている状況である。所見を幾つか述べる。

① 腰部脊柱管狭窄症の症状

昨秋頃から、所簡間歇跛行の症状発現、中央病院に通院しMRI撮影結果腰部脊柱管狭窄症と診断、投薬するも薬石効なく、手術を決断するに至る。歩行開始数分にて両脚に疼痛・痺れの間歇跛行の典型的症状、前屈・後屈、ストレッチで一時的症状改善し、歩行再開という状況で昼休みのウォーキングも中断止むなし。症状を他人に伝えることの困難さを知る。

② 手術の決心と脊柱狭窄の状況

腰部手術には多くの者が抵抗感があるのは当然であろう。自衛隊一の名医の執刀ならば、万が一もないだろうし、他の対処療法では根本的な解決にならないとも判断し、手術をお願いした次第である。手術前日の脊椎造影検査で、新たに1箇所狭窄部分が発見されて、3箇所の手術が必要なことが判明した。術後Nドクターの言によれば、かなりハードな手術だったようで、脊柱の内側の硬膜が馬尾にしっかり癒着しており、症状も相当なものだったろうと考えられると。

③ 全身麻酔と夢

麻酔医は小生旭川時代の司令部医務官、鹿児島出身である。麻酔が効き始めた頃に、郷土の出場校鹿実の得点を、手術終了後覚醒する頃に大勝との試合結果をそれぞれ小生に告げたとのことである。後日それらの状況を如何ほど認識しているかを問われたが、試合結果については判然とはしなかった旨回答した。麻酔薬量の判断は至難の業で千差万別であり経験を積むの他にないのかも知れぬ。彼曰く、薬量によっては稀には楽しい夢を見る人もいる由。残念なり？3時間余りの手術、病室滞留時間6時間半であった。覚醒して病室で孫娘達に合っても意識は未だ不完全であった。



④ 術後の身の置き所なさ

手術後の切開部の痛みも大したこともなく、早く歩いてみたいと焦る気持ちもあるが、当面は安静である。脊柱切除部からの出血を対外に抜くためのドレインや点滴用の管付では身動きも儘ならぬ。斯様な体位での安静は苦痛以外のものでもない。身の置き所なしとはこのことか？それにしても夜の長さよ！

⑤ 筋力低下に驚愕！

術後に大腿四頭筋セッティング及び SLR（膝伸展下肢挙上運動）をして大腿部の筋力低下を防止することが奨励されるが、それ程のあるものかと高を括っていたが、想像以上の低下があるようだ。大腿四頭筋の筋力は、一日に付き数%低下するので、この低下を防止することが重要であるとの由。

⑤ 排泄の不便さ

全身麻酔、手術、そして2日程度の安静の間は、当然だが、自己排泄は不可能である。止むを得ないとは言え、何と恥ずかしくもあり、不便なものかと痛感した。尿管の抜管、尿瓶をも不要になったときの放尿の気持ち良さよ、小生も例に漏れずに便秘になったが・・・

⑥ 雑感

a 1週間振りのシャワー、嬉しきものなり。風呂はもっと気持ち良からう。

b 横臥、または仰臥での摂食や歯磨きは至難の業である。

c 術後の疼痛・麻痺の状況 依然として左足にある 神経性の病氣治癒の困難性が間歇跛行とは異なる場所に類似症があり、歩行時にたまらなくなる恐れがあり、歩行器に頼っての移動、頼りすぎとは解っていても怖くて手放せない。然し矢張りそのような余計なものは無いほうが爽快である。

左足の痛点等が次第に移動する?何故だ?神経は微妙で解らない。大手術をしたのだから、何処かに支障が出るのは当然である。次第に日中はそれらを感じなくなったのだけれど、就寝前には酷くなる。日中は気が紛れているが、就寝前には意識がそこに集中してくるからなのだろうか。

d 院内探検 病院はどの病室からも外が見えるように工夫されている。患者の精神療法上有効なのだろう。

e 長い夜が恐怖だ。11時までにはテレビを見たとしても朝6時の起床までは7時間安逸な生活をしていると眠れるものではない。

f 手術から2週間、抜糸ならぬ抜鉤、抜鉤までには意外に時間がかかるものである。ステープラー（医療用ホッチキス）で縫合してある由 15鉤

g 術後2週間目全抜鉤し、明日からは、屋外散歩許可、階段昇降訓練

h 院外療法許可を受け1時間半にわたり散歩し、三宿駐屯地を散歩する。久々の風が懐かしく、汗も気持ち良い。熱中症になる前に引き上げる。

衛生科職種を象徴する「仁」の碑、帝国陸軍縁の記念碑、旧軍以来の衛生の歴史や遺品、先陣医学の発展の歴史を伝える彰古館(予約がないからと見学を断られた!)

グランドでは、土日にも係わらず分隊教練をしている。桜の古木の根元には蟬の亡骸、秋が近づきつつあるようだ。半月も隔離され、窓外に見える風景では感じられない季節を実感出来る野が良い。

i 術後から腰の保護のためにコルセットをしているが、次第に手放せなくなりそうだ。

頼ってはいけないのだろうが・・・ 事後の療法計画によれば腰に余り負担を欠けぬようにとしなければならぬ。一月後に主治医の検査を受験する必要あり。

j 3週間ぶりの自宅である。やはり落ち着く。毎日見舞いに来てくれた家内との乾杯、ビールがこんなに美味しいとは。

k 紺屋の白袴

医療特約が20日免責であった。保険会社勤務の者としては見直しに手抜きがあったと言うべきか?辛うじて20日をクリアしたから良かったが・・・

l 病院だから仕方ないのかも知れないが、病室ではメールは可能でもインターネットが使えないのは、何とも不便である。

m 病院の楽しみの一つが食事なのだろう。工夫されている感じだ。整形病棟入院者には、特にそういうことだ。

